

6月2日発表のインド政策金利の引き下げについて

政策金利を7.5%から7.25%に引き下げ

インド準備銀行(中央銀行)は、6月2日に金融政策決定会合を開催し、政策金利であるレポレート(中央銀行が市中銀行に資金供給を行なう際の金利)を0.25%引き下げ年率7.25%に、リバースレポレート(中央銀行が市中銀行から資金を吸収する際の金利)を0.25%引き下げ年率6.25%とすることを決定しました。現金準備率は4.0%に据え置かれました。今回の決定は市場予想通りであり、今年に入って3回目の利下げとなります。

利下げ発表後の日本時間14時40分現在、インドルピーは対米ドルで前日比0.1%のインドルピー安、対円で同0.3%のインドルピー高で推移しています。

投資の弱さなどを受け、利下げを「前倒し」で実施

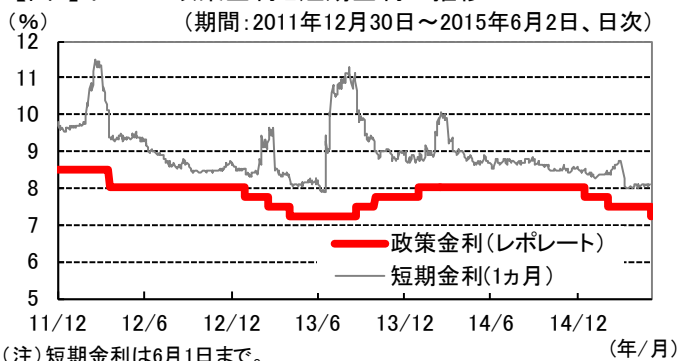
今回の決定の背景には、設備稼働率が低いこと、景気回復の指標が強弱まちまちであること、投資と信用の伸びが弱いことなどがあります。同中銀は、「保守的な見方では、モンスーン期の降雨がインフレ率に与える影響を確認するまで金融政策の判断を待つのがセオリーだ」としたうえで、インフレ率が想定範囲で推移するなか、「民間投資を促進するために利下げを前倒し、不確実性を払拭するデータを待つのがより適切なスタンスだ」としています。

同中銀はインフレに関するリスクとして、モンスーン期の少雨や、原油価格の上昇、予想されるFRB(米連邦準備制度理事会)による利上げを背景とした通貨変動などを挙げています。また、同中銀は今後のインフレ率について、今年8月まで鈍化した後、2016年1月に目標値の6%前後まで上昇するとみていることなどから、一部の市場参加者はさらなる利下げは限定的になるとみています。

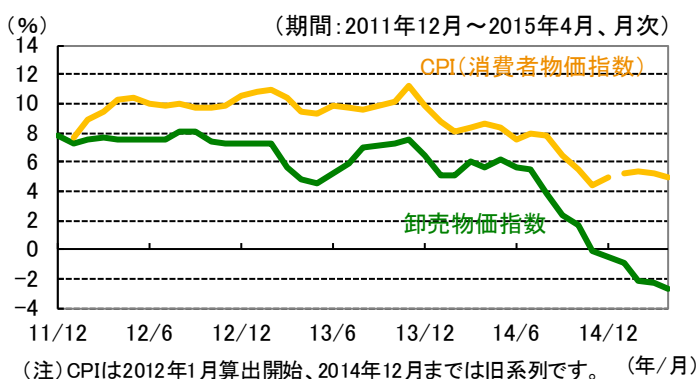
次回の金融政策決定会合は2015年8月4日に予定されています。

以上

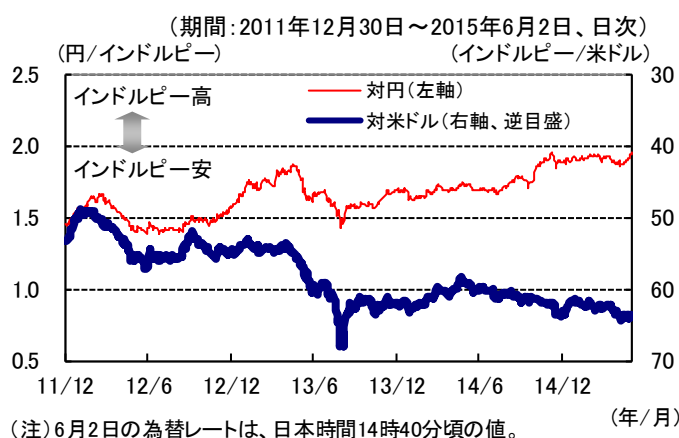
【図1】インドの政策金利と短期金利の推移



【図2】インドの物価指数(前年同月比)の推移



【図3】インドルピーの対円・対米ドルレートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。